

しもやしき 下屋敷遺跡

発掘調査説明会資料

2007年11月30日(金)

財団法人山形県埋蔵文化財センター

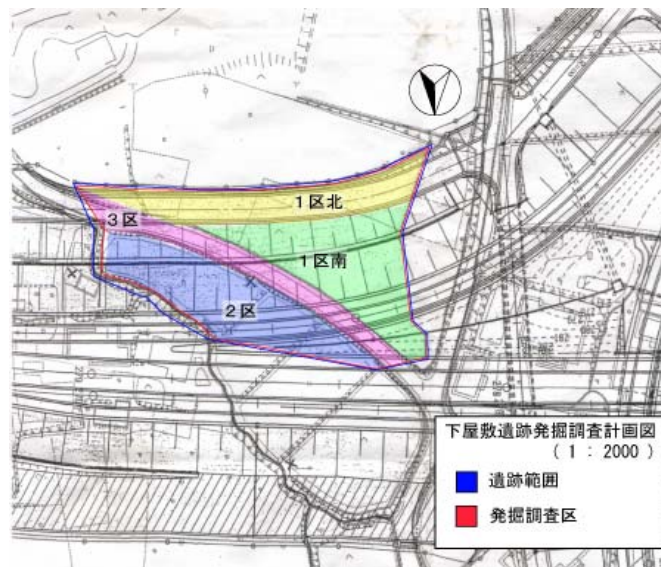


調査要項	
遺跡名	下屋敷(しもやしき)遺跡
遺跡番号	平成17年度登録
所在地	米沢市万世町桑山下屋敷
調査委託者	国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所
調査原因	東北中央自動車道(福島～米沢)新設事業
調査面積	3,000㎡
現地調査	平成19年9月25日～平成19年11月30日
遺跡種別	集落跡
時代	縄文時代・平安時代・中世・近世
遺構	河川跡・溝跡・井戸跡・土坑・ピット
遺物	縄文土器・石器・須恵器・土師器・青磁・古銭 中世陶器・近世陶磁器・木製品
調査担当者	調査課長 長橋 至 調査研究員 菅原 哲文 調査研究員 武田 伸一 調査員 山木 巧
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社山形工事事務所・ 置賜教育事務所・米沢市教育委員会・米沢市コミュニティセンター

調査の概要

下屋敷遺跡は、米沢市万世町字下屋敷に所在し、平成17年度に県教育委員会により縄文時代・中世の遺跡として登録されました。東北中央自動車道(福島～米沢)新設事業にかかるため、発掘調査を実施することになりました。調査面積は3,000㎡です。調査は、9月25日から開始し、11月30日に終了予定です。発掘調査区は、1～3区に分け、順次調査を進めています。1区については既に調査を終了しています。

今後、発掘調査によって得られた資料は整理作業を行い、平成20年度以降に報告書として刊行される予定です。



検出された遺構と遺物

下屋敷遺跡では、主に中世の遺構が発見されました。

1区では、中世の井戸跡が3基、溝跡、建物跡の柱穴、土坑が確認されました。井戸跡(SE3・SE6・SE7)は、平面形が方形で、一辺が1.0～1.5mの大きさです。どの井戸跡も、壁面に板材を縦に並べて横木で押さえ、四隅に杭を打って留めていました。SE6は、使われなくなってから、大きな石を入れて埋め戻しをしていました。SE6からは、曲物の柄杓が、SE7からは、中国産の青磁碗、在地で製作されたと考えられる甕の破片が出土しました。

2・3区では、SG11・12河川跡が検出されました。幅は約6mと規模は大きくありません。SG11河川跡の堆積層からは、奈良・平安時代と中世の遺物が出土しています。この河川は、奈良・平安時代以前から流れていたと考えられますが、中世になると河川の堆積が進んで流れは浅くなっていたと考えられます。

河川跡出土の奈良・平安時代の遺物では、須恵器高台坏・甕・土師器坏・甕が出土しています。中世の遺物では、陶器の甕などが出土しています。木製品では、曲物の底板が認められます。また、人工的な遺物ではありませんが、クルミやトチの実が多く出土しています。

調査のまとめ

下屋敷遺跡は、中世の集落跡です。遺物の時期から、鎌倉時代から室町時代にかけてのものと考えられます。

井戸跡、溝跡を中心とした遺構が確認されました。3基の井戸跡は杵材が残り、当時の使用されていた状態が良好に残されていました。建物跡は、調査区で検出されませんでした。北側に建てられていた可能性があります。

陶磁器や木製品を中心とした遺物が出土しましたが、出土量は少なく、短期間に営まれた規模の小さな集落であることが推測されます。

このほか、遺構は検出されませんでした。縄文時代や、平安時代の遺物も出土しています。



洪武通寶(こうぶつうほう)背一銭



須恵器高台坏

須恵器甕



中世陶器



鞆(ふいご)羽口



1区 調査区 全景



1区



青磁碗 出土状況



SE7 井戸跡 完掘状況



SE6 井戸跡 完掘状況

3区



2区

0 10m
(1 : 300)



SE6 井戸跡出土 柄杓



2区 調査区 全景



2区 河川跡 検出状況



2区 河川跡 作業状況



羽口(はぐち)出土状況